

1年間ありがとうございました

校長 小泉 啓治

職員室前の1年生の花壇や植木鉢のクロッカス、ヒヤシンス、スイセン等が、花を咲かせ始めました。『2月は逃げる』というようにアツという間に3月を迎えました。いよいよ今年度最後の月。6年生にとっては卒業の月です。1日1日を大切に過ごしていきたいと考えています。

今年度も保護者の皆様や地域の方々のお力添えやご協力をたくさんいただきました。子どもたちの安心・安全のために見守り活動や子ども110番でご協力いただいた方々。総合学習を中心に直接学習に関わったり、教室に来ていただいた方々等々。本当にたくさんの方々を支えられている永野小学校を実感した1年間でした。ありがとうございました。年度末にあたり、改めてお礼を申し上げますとともに、来年度もよろしく願いいたします。

さて、今年は閏年（うるうどし）です。4年に1度の閏年。子どもの頃はよく『この日に生まれた人の誕生日は4年に1回？』などと考えたものでした。4年間に1日増やすのは、暦と季節をずらさないようにする工夫です。つまり365日ちょうどで地球が太陽の周りを回っているわけではないので、調節しているわけです。もし閏年がないとおよそ720年後には、7・8月が真冬というふうになってしまうそうです。今から数千年も前の人々が、地球の公転の時間を正確に測定し、暦を作っていたと聞くと本当に驚きます。

日本で、昔使っていた暦は月の満ち欠けを基にした太陰暦でした。その頃は、三日月はいつも3日の日に、十五夜というのは15日の月だったはずですが、これですと、現在の暦よりももっと誤差が大きいので、閏月（うるうづき）をつくりました。つまり、同じ月が2回ある年が19年に7回あるのです。今からでは考えられません。しかし、季節感からいうとこちらの暦の方がぴったりしているようで、今でも農家ではこちらを使って作業の予定を立てている面があるようです。

この太陰暦から、現在の太陽暦に変わったのが明治5年12月3日でした。この日が明治6年1月1日になったのです。鎖国をやめて、外国と交流をするようになったのですから、暦が違っては何かと不便だったのでしょう。これを押し進めたのはかの福沢諭吉だったとか。しかし、当時財政難で四苦八苦していた明治政府は、この改暦で役人の給料を1ヶ月分節約するのが目的であったという話も残っています。

閏年から、暦の話になってしまいました。19年度の学校の暦が、4月から一回りできそうなことに改めて感謝しております。至らなかったことについてはきちんと反省し、次の年の計画に生かしていく所存です。本当にありがとうございました。